

令和7年度 江南市男女共同参画懇話会懇話会

1 開催日時：令和7年12月19日（金）午後1時30分～午後3時10分

2 開催場所：江南市役所3階 第3委員会室

3 出席者：大池委員、岡田委員、小野委員、片岡委員、栗本委員、小森委員、
沢田委員、高田委員、野田委員、日比野委員、丸田委員、山田委員
計12名 事務局

4 欠席者：前田委員、松井委員、宮澤委員 計3名

5 議題

- (1)「第3次こうなん男女共同参画プラン」推進状況について
- (2)江南市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度について
- (3)その他

6 議事内容

議題（1）「第3次こうなん男女共同参画プラン」推進状況について	
事務局	第3次こうなん男女共同参画プランの概要について説明
委員	「女性の視点に立った防災対策の推進」について、各避難所の女性防災要員はどのような方を登用していますか。
事務局	各避難所の防災要員は、市の職員を登用しています。
委員	「女性団体への支援」について、江南市女性連絡協議会には日頃より活動を支援していただいておりますが、今後は、男性や若い世代の方々とも、より幅広いつながりを築いていきたいと考えています。パパママ教室をはじめとする市が実施するセミナーなどに参加されても、その場限りの参加にとどまってしまっています。
会長	委託を受けている男女共同参画市民フェスタなどで工夫することはできないでしょうか。
委員	来場者やボランティアとして参加した学生にも、男女共同参画とはどういうものであるかに触れてもらっていますが、その後の継続的な関わりや次の活動につながらないため、江南市女性連絡協議会の事務局でもある市民サービス課において、参加者の関心を今後の取組へとつなげることができるような施策をお願いしたいと考えています。
委員	今年6月の男女共同参画週間には、市民サービス課と連携してセミナーを開催し、女性連絡協議会の会員が講師を務めさせていただきました。関心を持って受講してくださった方々に、団体の活動について

	知っていただき、今後一緒に活動していくような体制づくりができると期待しています。
事務局	市民サービス課が開催するセミナーに参加される方は、男女共同参画に関心がある方のほか内容に関心を持って参加される方もおみえになりますので、一概に男女共同参画に関心があるとは言えませんが、男女共同参画に関心を持って参加されている方もいますので、今後講座の最後に団体の紹介を行うことについて検討していきます。
会長	セミナーやイベントではアンケートを実施していると思われますので、今後も同様のイベントなどの開催案内を希望される方にメールアドレス等を記入していただき、情報発信を行う仕組みを市として検討してはどうでしょうか。
事務局	今は、アンケートに二次元コードを活用することも可能となっていますので、参加者が自宅に戻ってから時間をかけて内容を確認しながら回答することができ、情報提供の希望の有無なども含めたアンケートの実施が可能になると考えます。 今後は、二次元コードなどの新たな手法の活用も含め、今後の取組に繋がるセミナーのあり方について検討していきます。
委員	「家族介護教室の実施」、「家族介護者への支援」について、今後ますます在宅介護の需要が増えてくると思われます。担い手の中心は、女性となることも予想されますが、在宅介護では具体的にどのような支援が行われていますか。
事務局	介護のあり方は各家庭によって異なるため、今後は男性・女性といった区別にとらわれず担われていくものと考えます。 市の支援としては、65歳以上の要介護4または5の認定を受けた重度の要介護高齢者を在宅で介護している方に対して、1か月2,000円の介護慰労金を支給しています。
委員	令和3年から市の委託を受けて社会福祉協議会が「家族介護教室」を実施していますので、実績値の補足をさせていただきます。 令和6年度は、3つのテーマで動画を配信しており、参加者はそれほど多いとは言えませんが、令和7年1月27日から3月31日までに、介助 167回、栄養 98回、看取り 88回の配信をしています。 令和7年度については、動画配信ではなく、参加型のセミナーとして全3回の開催を予定しており、実際に会場にお越しいただき、参加者同士の交流を深めることができればと考えています。 なお、本セミナーは介護の具体的な方法を学ぶものではなく、介護を担っている方の悩みへの対応や、介護予防といった観点から教室を設けています。 また、「障害のある人・家族への相談支援」ですが、基幹相談に關しても市から社会福祉協議会が委託を受けて実施し、令和6年度の実

	績は223件でした。
会長	進捗管理シートに実績などの数値を載せると良いのではないでしょうか。
事務局	次回からは、実績等も併せて掲載し、より分かりやすく具体的に示すよう努めます。
委員	<p>「家族介護教室」について、参加者が少ないとのことですが、実際に親の介護に直面している状況では、自身で教室を探すことが難しい場合も少なくないと思われます。</p> <p>一方で、教室に参加される方は、介護に関する知識を得たい方であり、情報交換も活発に行われています。</p> <p>この取組については、参加人数だけで評価するのではなく、教室を開催することで困りごとを抱える方が関わるきっかけとなっているため、今後も継続していただきたいと考えます。</p>
委員	市から委託を受けて実施しているため明言はできませんが、今年度の事業が終了した際には、市へ報告させていただきます。併せて、周知・PRにも努めていきます。
委員	<p>ワーク・ライフ・バランスの推進について、市男性職員の育児休業取得率は、計画が策定された令和2年には8.3%でしたが、令和6年には85.7%と大きく上昇しています。この間に、何か特別な取組を行われたのでしょうか。</p> <p>国家公務員においても男性職員の育児休業取得が積極的に奨励されており、先日公表された取得率は85.9%と、市の数値とほぼ同水準でした。</p>
事務局	<p>一つの要因として、男性の育児休業に対する理解が進んできたことが挙げられます。職員全体に育児休業を取得することが当たり前という意識が広がり、取得を検討しやすい環境になってきています。また、育児休業取得に伴う給与面での不安が緩和されたことも、大きいと考えられます。</p> <p>現状では、育児休業を1年以上取得する男性職員は1～2人程度にとどまっていますが、1～2か月程度取得する職員は大幅に増加し、現在はほぼ100%に近い状況となっており、子どもが生まれた際には育児休業を取得するという雰囲気が定着しつつあります。</p> <p>一方で、職員が育児休業を取得することによる代替職員の確保や周囲の職員の負担が増えてしまうことは課題となっています。</p>
委員	<p>行政が自ら模範となり、民間企業に対しても育児休業取得を後押ししていっていただきたいと思います。民間企業では、周囲も言葉では賛成していても、実際の取得には慎重な企業も依然としてあります。</p> <p>厚生労働省では、従業員が育児休業を取得したことにより周囲の職員の負担が増加する場合に、新たな労働者を雇用した場合のほか、雇</p>

	用に至らなくても業務負担の増加に対して手当を支給した場合などに、事業者へ助成金を支給する制度を設けていますので、こうした制度を積極的に活用していただきたいと思います。
事務局	江南市では、代替職員の確保として会計年度任用職員を雇用していますが、正規職員の勤勉手当を少し上乗せする自治体も出てきています。
委員	休暇を取得することが、周囲に迷惑をかけるという意識ではなく、休暇取得を前提とした制度や体制が整っていることが当たり前となる状況が望ましいと考えます。
会長	<p>「あいち女性輝きカンパニー」の取組がありますが、大学生の就職活動の様子を見ていると、企業がどのような制度を整えているか、また、どの程度アピールしているかを重視して就職先を選ぶ学生が増えていると感じます。</p> <p>積極的に取り組む企業が増えることで、若い世代が就職を機に地域に定着することも期待できます。表彰を受ける企業や女性活躍を推進する企業が増加することは、地域の活性化にもつながると考えられます。</p>
副会長	<p>性教育について、学校では、地域学校保健委員会において保護者向けに実施し、多くの方に参加いただくなど、関心の高さを感じていますが、学ぶ機会があまり無いとも認識しています。</p> <p>女性連絡協議会で、保護者向けの性教育が実施されているのですが、どのような形で実施され、参加状況はどの程度であったのでしょうか。</p>
委員	夏休みに、保護者も子どもも参加する命の教室を実施しました。教室では赤ちゃんの産道を模したもの通り抜けてみることで、生まれることの感動を味わったりしました。助産師の資格を持った団体のメンバーが講師を務めましたが、とても人気がありました。
副会長	<p>資料にも中学校の思春期教室が載っていますが、現在は情報が溢れすぎており、性について、親として子どもとどう向き合うと良いのか戸惑う方多くみえます。</p> <p>子どもたちは、SNSで見たものをすべて信じて行動してしまい、子どもの性被害も増えています。親から、「自分の体が大切だよ」というメッセージを伝えられている家庭は良いですが、子どもとは性に関する話はしないという声もあり、悩みを抱える保護者も少なくないと思われます。</p> <p>結婚しない若者も増え、子どもを繋いでいくという感覚について、学校では学ぶ場が限られている現状もありますので、地域や行政が関わり、正しい知識を得る機会を設けてもらえると良いのではないかと思います。</p>

委員	今年の夏休みには、市の保健師に講師を依頼し、性教育の講座も実施しましたが、お母さんたちは、どうやって子どもに伝えたら良いか悩んでみました。
委員	特に男の子に対して、どう話していいか分からずというお母さんたちの声を聞きます。女性連絡協議会の出前講座においても性教育版を考えていきたいと思います。
副会長	<p>危機意識を持つ保護者も多くみえますが、性の問題について、母親にばかり負担がかかっていることも問題だと思います。</p> <p>講座の参加者も母親ばかりでしたので、市のパパママ教室などの段階から、父親に性のことにも関心を持っていただきたいです。育てていくだけではなく、性を捉えた時に、どう人生を歩んでいくか、思春期になったらどう触れ合うかということも繋げていってほしいと思います。</p> <p>義務教育期間中は、学校で継続して子どもたちを見守ることができます、卒業後を見据え、地域の支援センターなど、安心して相談できる拠り所を持てるように学校は考えなくてはなりません。そのためにも、地域との連携は非常に大切だと考えています。</p>
委員	<p>審議会委員への女性登用率について、江南市がなかなか伸びないのはなぜでしょうか。</p> <p>母親が働くことで、子どもにしわ寄せがいく部分はありますが、それでも政策決定の場に女性が出てきてほしいので、女性が参画できるように研究してほしいと思います。</p>
事務局	<p>委員を依頼する際に特定の役職の方をお願いしますと、現状では役職に就いている方に男性が多く、結果として男性の割合が高くなっています。</p> <p>市では、部長級以上が出席する会議の場で、日頃から女性の登用について働きかけを行っています。また、先日、懇話会に先立ち、市職員で構成する江南市男女共同参画推進委員会を開催ましたが、改めて女性登用の促進をお願いしました。推進委員会委員から、当初から女性委員の推薦依頼を行うことも一つの方法ではないかとの意見もありましたので、少しずつでも改善を図っていきたいと考えています。</p>
事務局	<p>現状では、いわゆるあて職として各団体の長が委員となることが多く、その結果、男性会長が多いことから、委員構成において男性の割合が高くなる傾向があります。今後は、各団体においても女性を積極的に登用するという意識を持っていただくことも重要です。</p> <p>また、委員構成自体が、あて職の団体を主として考えている場合が多いため、構成を見直し、公募委員を増やすことも有効ではないかと考えます。さらに、男女を問わず若い世代の委員を登用することも非</p>

	常に大切でありますので、審議会の開催日時について、土日や夜間開催など柔軟な対応を検討する必要があると感じています。
委員	江南市休日急病診療所運営協議会がありますが、委員には医師などが多いため、看護師の意見も反映されると良いのではないかと考えます。看護師の枠を増やすことで、結果として女性委員の増加にもつながるのではないかでしょうか。
事務局	協議会委員が固定的な構成となっており、看護師の枠は設けられていないと思われます。看護師の目線をはじめ、様々な目線があるので、凝り固まった審議とならないようにすべきであると考えます。
委員	江南市防災会議にも女性が少ないです。防災には、女性の視点が大切だと思います。
事務局	幹部会議の中でも女性委員の選出について話をしていますので、委員の皆様の意見も含めて話をていきます。
委員	中学生向けに素晴らしいパンフレットを作成されていますが、子どもの頃から体系的に取り組んでいくことが重要であると考えています。この取組は、来年度以降も継続して実施される予定でしょうか。
事務局	これまで中学生向けにパンフレットを配布してきました。今年度は、女性連絡協議会の中で中学生くらいのお子さんを持つ方々と意見を出し合いながら作成しています。来年度以降も、引き続き皆さんの中学生の声を取り入れながら作成していく予定です。
委員	このような理念の問題は、若い世代や教育の現場で段階を踏んで進めていくことがすごく重要な問題だと思います。中学生でこのような内容に取り組んだのであれば、2年生以降ではどのような取組を行っていくかといった流れが示されることで、より広がりのある取組につながっていくのではないかと思います。
委員	中学生向けのパンフレットを使って、女性連絡協議会では出前講座を3年前から実施しています。配布するだけで終わるのではなく、内容が生徒の皆さんの中に残り、理解を深めてもらえるよう取り組んでいます。
委員	パンフレットを配布するだけでなく、家庭に持ち帰って親子で話し合うなど理解を広げていくことが重要だと考えています。
委員	「ひとり親家庭への日常生活支援」ですが、ひとり親家庭はどのくらいみえますか。また、家庭生活支援員はどのような資格を持ってみえる方でしょうか。
事務局	児童扶養手当の受給者数で750人ほどです。家庭生活支援員については、ホームヘルパーの資格を持っている方を派遣しています。

副会長	<p>外国人への支援について、子どもが日本語を話せても親が話せないことも多く、保護者とやり取りをするときに、ふくらの家に通訳をお願いすることも多くありました。市民サービス課に配置されている通訳は、言語が限られており、十分とは言えない状況です。</p> <p>医療機関を受診する際には、子どもが学校を休んで日本語で説明するケースもあり、保護者からもサービスの充実を望む声もあります。</p> <p>学校においても、保護者会などで、ふくらの家に通訳を依頼していますが、対応できる人数に限りがあり、日程調整に苦慮している状況です。</p> <p>日頃からお願いしているところですが、今後、通訳体制を含めた支援の充実に向けた方向性があるのか、お伺いします。</p>
事務局	<p>翻訳機など意思疎通を図ることができる機器を準備することも必要と考えています。</p> <p>通訳の派遣については対応が難しいところもありますが、今の外国人登録や問合せなどの状況を踏まえて、今後の検討課題とさせていただきます。</p>
議題（2）江南市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度について	
事務局	江南市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度について説明
	特になし
その他意見等	
委員	<p>今年も女性連絡協議会で、ジェンダーフリーかるた会を開催します。昨年市制70周年記念の補助事業でかるたを作り、講座にも利用しています。中学生だけでなく、一般市民の皆様にも楽しんでいただきたいと思っておりますので、ぜひ周りの方にもお知らせいただきたいです。</p>

(15:10分終了)